

# 1 津軽海峡交流圏の形成を目指して～λ（ラムダ）プロジェクト～

青 森 県

## (1) 今年度末北海道新幹線新青森・新函館北斗開業

今年度末に、北海道新幹線新青森・新函館北斗間が開業し、青森県にも津軽半島の今別町に奥津軽いまべつ駅が設置される。

現在、新青森・函館間は特急列車で約2時間であるが、新幹線開業時には新青森・新函館北斗間が最速57分、平成30年春には最速39分で結ばれることになる。青函連絡船の時代が3時間50分であったことを考えると、両地域の時間距離は大幅に短縮される。

北海道新幹線開業により、観光・ビジネスを始め、医療、教育など様々な分野において道南との交流が深まっていくものと考えられることから、こうした将来の姿を見据え、青森県では「λ（ラムダ）プロジェクト」に取り組んでいる。

## (2) λ（ラムダ）プロジェクト

「λ（ラムダ）プロジェクト」とは、青森県全域と函館を中心とする道南地域とを一つの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成を進め、圏域内の交流の活発化を図るとともに、圏域外からの交流人口の拡大と訪問者の滞在時間の質的・量的拡大を目指す取組みである。

プロジェクト名は、新函館北斗駅から新青森駅を通過して八戸駅への新幹線のルートと、新青森駅から弘前駅への奥羽本線のルートの形が、ギリシャ文字のλ（ラムダ）に見立てることができることに由来する。

青森、弘前、八戸だけではなく、青森県の4つ目の新幹線駅となる奥津軽いまべつ駅の周辺地域、下北地域など本県全域と、道南地域との交流を促進し、「津軽海峡交流圏」の形成につなげていきたい。

## (3) 青森県と道南地域

津軽海峡交流圏の対象エリアは、青森県40市町村、北海道渡島地域11市町及び檜山地域7町からなる道南地域である。圏域内の人口は、184万3千人、面積は16,213km<sup>2</sup>、総生産は5兆8,714億円、観光客数は4,461万9千人となっている。

これは、青森県単独の場合と比較して約1.3～1.7倍に相当するが、両地域がそれぞれ持っている地域資源などの強みを組み合わせることによって、さらに相乗効果を発揮できると考えられる。

青森県と道南地域の交流の歴史は古く、縄文時代から交流があったと言われている。明治4年に青森県が設置された際にも檜山地域が青森県に含まれていたことや、青森県から道南に移住した人が多いことなど、歴史的・文化的なつながりが深い。こうした地域において新幹線開業という共通の大きなチャンスを見据えた連携の機運は高まってきており、すでにビジネス面などにおける連携事例が出てきている。こうした動きを、様々な分野でさらに加速させていきたい。

### 【津軽海峡交流圏の概要】

区分	津軽海峡交流圏	津軽海峡交流圏	
		青森県	道南地域 (渡島地域+檜山地域)
人口（千人）	1,843	1,373	470
面積（km <sup>2</sup> ）	16,213	9,645	6,568
総生産（百万円）	5,871,364	4,472,202	1,399,162
観光客数（千人）	44,619	33,174	11,445

出典：平成 22 年国勢調査、全国都道府県市区町村別面積調(平成 26 年 10 月 1 日時点)、平成 24 年度青森県県民経済計算、平成 24 年度道民経済計算、平成 25 年青森県観光入込客統計、平成 25 年度北海道観光入込客数調査報告書

#### <参考>

渡島地域（11 市町）・・・函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町

檜山地域（7 町）・・・江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町、今金町、せたな町

#### （４）λ（ラムダ）プロジェクトの推進体制～青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

「λ（ラムダ）プロジェクト」を推進するエンジン役となるのが、民間委員で構成する「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」である。この会議は、現場で様々な成功事例を生み出し活躍している、メンバーの掟にふさわしい方々に就任していただいている。

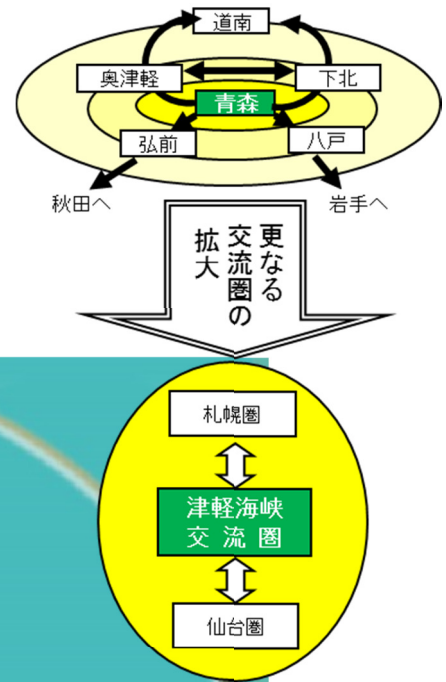
委員の方々には、これまでにない新たな視点で、交流圏形成に向けた様々なアイデアを提案していただくようお願いしており、併せて、委員自らが、自らのフィールドで津軽海峡交流圏の形成に向けた活動に汗をかいていただくこととしている。

##### 【メンバーの掟】

- ①青森県を元気にしたいという熱い思いがある
- ②前向きである
- ③面白いことが好きである
- ④自ら汗をかく
- ⑤交流圏形成の頭脳である

また、県においては、副知事をトップとする津軽海峡交流圏形成促進庁内会議や、北海道庁との連絡調整会議を設置し、津軽海峡交流圏の形成に向けて取り組んでいくこととしている。

<参考> 津軽海峡交流圏の形成



[可能性]

- 北海道新幹線開業は、観光、経済、医療、教育、文化など様々な分野に開業効果が波及する可能性を持つ、北海道と青森県に共通する **ビッグチャンス**
- 青森県と道南地域は、地理的・歴史的・文化的に **つながり** のある地域



[目指す姿]

- 青森県と道南地域が一体となった「津軽海峡交流圏」を形成し、
- ① 圏域内の交流の活発化、
  - ② 圏域外からの交流人口の拡大と滞留時間の質的・量的拡大を図っていく。

## 2 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議名簿

### ■委員 (22名)

(五十音順)

所 属	職名	氏名	備考
跡見学園女子大学	教授	磯貝 政弘	
NPO法人 かなぎ元気倶楽部	専務理事	伊藤 一弘	
JR東日本青森支店	支店長	江刺家 昭彦	H26.6.27 就任
八戸学院大学	学長	大谷 真樹	
モズデザイン		尾崎 伸行	
八戸観光コンベンション協会	観光コーディネーター	木村 聡	
マインドシェア	地域づくりプロデューサー	木谷 敏雄	
あおもり SEIAN	代表取締役	後藤 清安	
弘前観光コンベンション協会	事務局長	坂本 崇	
あおもり観光デザイン会議		佐藤 大介	
ぷらっと下北	代表	島 康子	
青森商工会議所	地域振興部長	鈴木 匡	
また旅くらぶ	主宰	高木 まゆみ	
The企画エルサーチ	専務取締役	対馬 逸子	
リンゴミュージック	マネージャー	樋川 由佳子	
じゃらんリサーチセンター	エグゼクティブプロデューサー	ヒロ 中田	
ツガルサイコー	専務取締役	福士 拓弥	
NPO 法人 ACTY	理事長	町田 直子	
青い森鉄道	主任	三津谷 あゆみ	
JR東日本	総合企画本部品川・大規模 開発部担当部長(品川)	本宮 彰	
弘前大学人文学部	教授	森 樹男	
紀行作家		山内 史子	

平成 25 年 3 月 26 日～平成 26 年 6 月 26 日 向久保文一氏 在任

### ■アドバイザー (2名)

(五十音順)

所 属	職名	氏名	備考
日本経済研究所	調査局長 兼 地域未来研究センター副局長	大西 達也	
日本銀行青森支店	支店長	山口 智之	H26.7.4 就任

平成 25 年 3 月 26 日～平成 26 年 7 月 3 日 宮下俊郎氏 在任

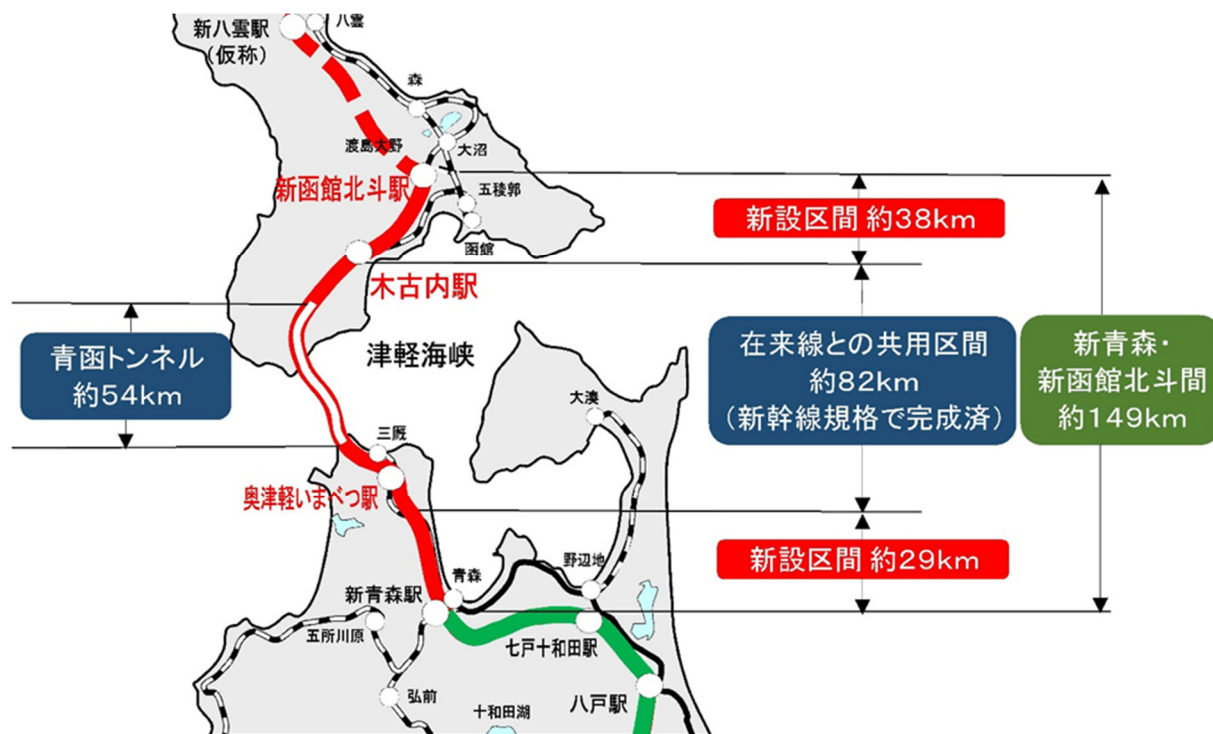
### 3 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の活動記録

平成 25 年 3 月 26 日	第 1 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 25 年 5 月 2 日	第 1 回交流圏イメージづくりチーム会議	開催
平成 25 年 5 月 9 日	第 1 回交流圏創造チーム会議	開催
平成 25 年 5 月 28～29 日	第 2 回交流圏イメージづくりチーム会議	開催
平成 25 年 6 月 17 日	第 2 回交流圏創造チーム会議	開催
平成 25 年 7 月 9 日	第 3 回交流圏創造チーム会議	開催
平成 25 年 7 月 12 日	第 3 回交流圏イメージづくりチーム会議	開催
平成 25 年 7 月 29 日	第 2 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 25 年 8 月 28 日	λ (ラムダ) プロジェクトに関する提案公表	
平成 25 年 12 月 12 日	第 4 回交流圏イメージづくりチーム会議	開催
平成 25 年 12 月 13 日	第 4 回交流圏創造チーム会議	開催
平成 26 年 3 月 15 日	第 5 回交流圏イメージづくりチーム会議 (公開ナマ作戦会議)	開催
平成 26 年 3 月 27 日	第 5 回交流圏創造チーム会議	開催
平成 26 年 4 月 18 日	第 3 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
	第 6 回交流圏創造チーム会議	開催
	第 6 回交流圏イメージづくりチーム会議	開催
平成 26 年 5 月 15 日	第 7 回交流圏イメージづくりチーム会議	開催
平成 26 年 5 月 16 日	第 7 回交流圏創造チーム会議	開催
平成 26 年 5 月 26 日	第 8 回交流圏創造チーム会議	開催
平成 26 年 5 月 27 日	第 8 回交流圏イメージづくりチーム会議	開催
平成 26 年 6 月 27 日	第 4 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 26 年 7 月 15 日	λ (ラムダ) プロジェクトに関する提案「津軽海峡交流圏の未来を変える挑戦」公表	

平成 26 年 12 月 18 日	第 9 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 26 年 12 月 25 日	第 9 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 27 年 2 月 12 日	第 10 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 27 年 3 月 14 日	津軽海峡交流圏公開生バトル I N 函館 開催
平成 27 年 3 月 17 日	第 10 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 27 年 5 月 13 日	第 6 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催 第 11 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 27 年 5 月 26 日	第 11 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 27 年 7 月 10 日	第 7 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 27 年 8 月 5 日	λ（ラムダ）プロジェクトに関する提案「津軽海峡交流圏の未来を変える挑戦 2015」公表

## 4 北海道新幹線 新青森・新函館北斗間について

### (1) 概要



■開業予定：平成 27 年度末

■運行主体：JR 北海道

■運行本数：未定 <参考>新青森・函館間の特急 10 往復

■所要時間（最速）：開業時→57 分（平成 30 年春→39 分）

■新幹線の駅：

**青森県** 新青森駅（既設）、奥津軽いまべつ駅（新設）

**北海道** 木古内駅（新設）、新函館北斗駅（新設）

<参考①>新幹線駅の乗車人員（平成 26 年度 1 日平均）

八戸駅	3,598 人	
七戸十和田駅	712 人	
新青森駅	4,850 人	※JR 東日本データ

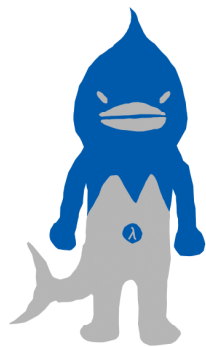
<参考②>JR 北海道駅の乗車人員（平成 26 年度 1 日平均）

函館駅	3,004 人	
五稜郭駅	939 人	
木古内駅	214 人	※JR 北海道データ



## (2) 北海道新幹線新青森・新函館北斗間の経過

昭和 39 年 5 月 8 日	青函トンネル掘削開始
昭和 47 年 6 月 29 日	北海道新幹線（青森・札幌間）の基本計画決定
昭和 48 年 11 月 13 日	北海道新幹線（青森・札幌間）の整備計画決定
昭和 63 年 3 月 13 日	青函トンネル開業（延長約 54km, 建設費約 6,500 億円）
平成 10 年 2 月 3 日	新青森・札幌間の駅・ルート公表
平成 14 年 1 月 8 日	新青森・札幌間 工事实施計画認可申請（その 1）
平成 17 年 4 月 20 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画追加認可申請
平成 17 年 4 月 27 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画（その 1）認可
平成 17 年 5 月 22 日	新青森・新函館（仮称）間 建設工事起工式
平成 22 年 5 月 19 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画（その 2）認可
平成 24 年 11 月 18 日	青森軌道敷設工事 安全祈願並びにレール発進式
平成 25 年 1 月 18 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画変更認可
平成 25 年 4 月 26 日	駅名「奥津軽いまべつ駅」今別町が J R 北海道へ要望
平成 25 年 6 月 4 日	奥津軽（仮称）駅 新築工事安全祈願
平成 26 年 4 月 16 日	北海道新幹線用車両（H5 系）の概要・デザイン発表
平成 26 年 6 月 11 日	北海道新幹線新駅の駅名発表 奥津軽（仮称）駅→ 奥津軽いまべつ駅 新函館（仮称）駅→ 新函館北斗駅
平成 26 年 11 月 1 日	北海道新幹線「新青森・新函館北斗間」レール締結式
平成 26 年 11 月 20 日	北海道新幹線列車名「はやぶさ」「はやて」 及び H5 系シンボルマークの決定
平成 26 年 12 月 1 日	H5 系車両による走行試験開始



λ（ラムダ）プロジェクト  
シンボルキャラクター

マギユロウ

ラムダ  
プロジェクト

**【事務局】**

青森県 企画政策部 交通政策課 新幹線グループ  
〒030-8570 青森県青森市長島一丁目1番1号  
電話 017-734-9152 FAX 017-734-8035